

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東北)	◎	－	－	－
	○	乗用車販売店 (従業員)	来客数の動き	・新型車効果はまだ続いている。受注は微増だが、来客数は増えつつある。
	○	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・旅館業に対する様々な施策のお陰もあり、今月に関しては来客数は前年比120%増加となっている。特に7月中旬から8月中旬までの動きは堅調となっている。
	□	一般小売店〔書籍〕 (経営者)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響による買い控えが続いている。
	□	一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	来客数の動き	・27日現在、来客数は前々年比で100名減、前年比で403名減と、客足の伸びが悪くなっている。売上も前年比83.8%となっており、このところ低迷が続いている。
	□	一般小売店〔酒〕 (経営者)	販売量の動き	・お盆前までは東京オリンピックが開催されていた雰囲気もあり、飲食店、旅館関係共に僅かではあるが販売量が上向きになっていた。しかし、お盆過ぎに新型コロナウイルス感染者が急増すると一気に人が外出しなくなり、それに伴い販売量も一気に落ち込んでいる。
	□	一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	販売量の動き	・売上は横ばいである。店頭対応の感触は、繁忙感もあり若干上向いている印象を受ける。
	□	スーパー（経営者）	単価の動き	・前月に引き続き、平均1品単価は前年と同水準で推移している。来客数及び買上点数も前月と同じ推移である。新型コロナウイルスの感染者数が急増し、お盆商戦には帛省が少なく、天候も芳しくなかったため、全体的に消費推移の傾向は前月と同じになっている。
	□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・今月は少し動きが出てきたと思った矢先にまん延防止等重点措置の適用、続けて緊急事態宣言の発出と完全に頭を押さえられた感じで、後半は失速している。
	□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染の収束も予想以上に進まず、客足も戻ってこない。夏の最盛期に売上、利益を取れないと冬場をしのぐことができない。とにかく厳しい。
	□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で外出を控える人が多い。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前月は天候の影響で好調に推移したが、8月に関しては後半のお盆期間以降、コロナ禍及び天候不良により来客数に影響が出ている。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言発出、まん延防止等重点措置が適用され、経済的には非常にマイナスとなっている。人の動きは鈍化している。
	□	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で依然として客足が鈍く、観光客も激減し、土産品の売上もゼロに近い。辛うじてお中元の売上により前年比の3割減となっている。
	□	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者数の増加とともに緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等が全国に広まってきてことで、消費者が買物をする機会が減ってきている。
	□	家電量販店（店長）	お客様の様子	・ワクチン接種が行われているが、全国的な新型コロナウイルスの感染拡大によって、外出を避けている方が増えているように見える。
□	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・法人の受注は少し伸びてきているが、個人の受注がなかなか伸びない。	
□	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・宿泊の県民割が止まったままの状態であることに加え、まん延防止等重点措置の適用下であり、企業による需要も個人の旅行消費も止まったままである。	

□	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者の数により売上が増減している。新規感染者数が多くなれば外出控えになり、少なくなれば街中の人出は多くなる傾向にある。これまでの客との会話や客の購入品や購入量などをみると、客数以外はコロナ禍前と変わっていないようである。
□	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の設備投資意欲に変化がみられない。
□	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・東京オリンピック効果による放送サービスへの新規加入者数の増加を多少期待していたが、その効果は全くなかった。ただし自宅観戦者が多かったためか解約者は少なく、安どしている。インターネットや電話等の通信サービスは思った以上に新規の加入者が少ないが、自宅時間が多かったためか解約者も少ない。
□	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・コロナ禍で特段のイベントもなく巣籠り状態が続いていることから、変化は余りみられない。
□	競艇場（職員）	来客数の動き	・ここ数か月は経営状況にほとんど変化はない。来場者は常連客のみになっている。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・新規客もおらず、変わらない。
□	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響を余り受けていない客が多く、中長期の事業計画を粛々と進めているようである。
□	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・ウッドショックの影響が大きく、2か月前に受注し材料を確保できた物件でも、納品は2か月遅れの予定である。木材関連の納期末定のため、新規受注が難しくなっている。
□	その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	販売量の動き	・エアコン、コンロ、給湯器などの住宅設備機器は、前年の特別定額給付金効果で急増した販売実績を下回っている。リフォームは増改築、塗装以外の工事が減っている。
□	その他住宅〔住宅展示場運営会社〕（従業員）	来客数の動き	・年間で8月は来場者数が少ない月だが、前月から若干の減少であるため、3か月前と同等である。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス変異株の感染増加により、地元商店街の来街者数は前年比1割減少し厳しい状況が続いている。
▲	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・飲食店の人の来店がなく、発送もなくなっている。
▲	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・商圏内において過去最悪の新型コロナウイルスの感染拡大が進んでおり、来客数が減少している。滞留時間も短縮化しており、客単価ダウンにも影響しているとみている。
▲	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数の低迷が続いているが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、更なる減少がみられる。
▲	百貨店（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染者数の増加や高気温の日が続く、それとともに来客数も減少している。衣料品などのセール商品も品薄となり、売上も減少したが、高額商品については依然として堅調に推移している。
▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響がどこまで長引くか分からず、将来の収入に対する不安から、今後食料品に対する支出を抑える傾向が強まると予測している。
▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・7～8月は暑さのせいで商品が売れている。それ以外にも前年は夏休みが短かったこともあり、今年は良い実績になっている。
▲	スーパー（営業担当）	来客数の動き	・コロナ禍で帰省が減少した。また、猛暑から一転、お盆期間中は急激に気温が低下し、最高気温は20度前後となった。それにより夏物商材の日配、飲料、酒等が前年比大幅ダウンし、売上が前年を割り込んでいる。来客数も前年比94.8%と苦戦している。

▲	スーパー（営業担当）	お客様の様子	・前年のような極端なまとめ買いはないが、保存食や冷凍食品の需要は増加し、生鮮食品も内容量を増加させた商品などまとめ買いが増えている。しかし、東京オリンピックが終了しお盆が過ぎてから、新型コロナウイルス感染者数の増加に伴い、来店頻度が下がってきている。
▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス変異株の感染者数が爆発的に増えてきているので、客自体が余り動かなくなっており、必要なもの以外は買わないで帰っていくような状態である。そういった面ではかなり厳しい状態が続いている。
▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・客単価の高い時間帯である夜間の来客数が減少しており、売上が厳しい。
▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、来客数の減少が顕著になっている。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・7月は前年比100%近くまで回復した来客数が、8月は93%まで低下している。新型コロナウイルスの感染拡大の影響が大きい。
▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・今月は雨の日が多く来客数は厳しくなっている。全社ベースでも前年比96%と結構悪い。そのようななか、ここに来て緊急事態宣言が発出され、来客数は厳しい状態である。
▲	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・夏物も終わりになってきていて、秋物も立ち上がったばかりだが、まだまだ暑い日も多いので売上につながらない。
▲	衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・コロナ禍で営業時間短縮、また不要不急の外出を控える状況で、来客数が減っている。
▲	家電量販店（従業員）	単価の動き	・1品単価の下落が顕著になってきている。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・部品の供給が間に合わず、納期の遅延等が頻繁に発生してきているため、当初見込んだ売上が立たなくなっている。
▲	乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・半導体不足からくる車両の生産遅延により、当初見込んでいた売上はかなり落ちている。納車待ちの客の中には車両キャンセルも発生しており、問題は深刻化してきている。
▲	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・例年より仕事量が減っている。
▲	その他専門店 [靴]（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染者数の増加が止まらないなか、外出自粛の動きが顕著である。また、11日から15日まで最高気温が20度を下回る寒い日が続き、夏物商材の動きが止まった。
▲	その他専門店 [白衣・ユニフォーム]（営業担当）	販売量の動き	・相変わらず飲食店からの注文はない。その分の売上がどうやって補填すればいいのかわからない。また、同業他社との競合で値下げが激しく、利益が取れない。
▲	その他専門店 [ガソリンスタンド]（営業担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染者数の増加による販売量の減少に天候不順が重なり来店台数が減少し、油外商品の販売までも減少となっている。
▲	その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置から緊急事態宣言発出と続いたことにより、客足が遠のいている感じがある。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・客の宴会場の利用がほとんどない。会議利用もかなり少ない。
▲	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・お盆休みもありやや持ち直すかとみていたが、後半は感染者も増え、また見通しが立たなくなった。
▲	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により、予約済みであった個人旅行、修学旅行や遠足などの教育旅行が軒並みキャンセルや延期に追い込まれており、厳しい状況が更に悪化している。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・感染者数が増大しており、人の動きが少ない。

▲	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で海外からの部品が調達できない声を聞いている。特に半導体が鈍化しているため製品完成が遅延しており、売上が上がらない。よって経費削減で売上確保している状況である。
▲	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・飲食業の売上が大幅に落ち込んでおり、建設業や宿泊施設もかなりのダメージを受けている。今後廃業する店舗や会社が増加しそうな状況である。
▲	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が一向に下火にならないため、ますます営業活動がしにくくなっている。
▲	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出により、入込人数はかなり減っている。どちらかというと近隣客、地元客がかなり減っており、日帰り、宿泊共に激減している。また、団体客も軒並みキャンセル若しくは中止・来年へ移動となっている。
▲	観光名所（職員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況に大きく左右されている。様々な地域での緊急事態宣言発出や、県内の感染状況の目まぐるしい変化があり、そのたびに客のキャンセルがある。客が増えるということではなく、キャンセルのみが増えている。
▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・客のリターン率自体が前年もずっと10～15%減少の状況が続いており、ここに来て来客数が20%前後減少している。客も新型コロナウイルスに影響されて警戒感をもっているため、来店サイクルが伸びてきているのではないかとみている。
▲	その他サービス 〔自動車整備業〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大により、客足は停滞している。売上は低迷のまま回復していない。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言下なので仕方がないが、全く来客がない。
×	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・8月はまん延防止等重点措置から緊急事態宣言になり、当県でもお酒の提供は停止、夜8時までで閉店という厳しい状況下にあるため、繁華街のほとんどの飲食店がシャッターを閉めている。一般の人は全く出てこないという状況が続いている。
×	百貨店（買付担当）	来客数の動き	・中旬以降、気温低下と県独自の緊急事態宣言が重なり、一気に商況が悪化した。積極的な集客もできないままセール消化も進まず、打つ手がなかった。
×	スーパー（経営者）	お客様の様子	・お盆や夏休みが明け、新型コロナウイルス感染者数が増加している。そのため、高齢者を中心に買物に出ない、若しくは短時間で済ませるなど、マインドが非常に厳しくなっている。
×	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・県独自の緊急事態宣言発出後、来客数が著しく減少しており、日々の売上確保がより厳しい状況になっている。
×	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染の拡大によって、お盆で帰ってきて服を作るといったニーズが激減し、非常に厳しい状況になっている。
×	家電量販店（店長）	来客数の動き	・前年よりも来客数が10%以上減っているため、売上が大きく下がっている。気温など季節要因もあるが、テレビや冷蔵庫、洗濯機など買換え需要も買い控えの傾向がある。単価も前年より下がっている。
×	住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・コロナ禍からウッドショックということで、オーダーメイド家具の原材料等が値上がり又は入手困難な状況になってきている。そのため、生産が追いつかず、販売に影響が出ている。
×	住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・お盆前までの客の入りは少し良かったが、それから新型コロナウイルスの感染状況がひどくなり、緊急事態宣言も発出されたことで、客の入りがさっぱりになっている。売上も当然落ち込んでいる。
×	その他専門店 〔酒〕（経営者）	それ以外	・7～8月と飲食だけでなく店頭売上も明らかに急ブレーキが掛かってきている。そのような状況はコロナ禍の影響の大きい都市部だけでなく地方にも及んできている。

	×	その他専門店 〔食品〕（経営者）	来客数の動き	・地場産品の小売を行っているが、観光客や他県からの来店が多い。しかし、新型コロナウイルスの首都圏での広まりに加え、首長からは越県往来はしないようにとのメッセージが発せられており、人が動かない。何の補償もされないままどうすればよいのか分からない。
	×	高級レストラン（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルスのため、全ての動きが止まっている。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染が拡大してきて、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言などで全く客の出足が止まっている状態である。以前はテイクアウトの需要もあったが、最近はそのようなこともかなり減っており、大変厳しい状態が続いている。
	×	一般レストラン（経営者）	それ以外	・当地域では県独自の時短要請、更にまん延防止等重点措置の適用、今月27日からは緊急事態宣言が発出されるので、先が見えず、感染防止の観点から本店では全休している。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の適用以来、全く客が来なくなっている。酒の提供もできないため、電話も鳴らなくなった。そして27日に当県でも緊急事態宣言が発出されることが決まった。それにより飲食店に休業命令を出してもらったため、かえってそちらの方が助かる。
	×	一般レストラン（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルス感染者数が激増しているにもかかわらず、当エリアではまん延防止等重点措置や緊急事態宣言が出されていないため、レジャーや仕事での県外との往來を止めることができていない。しかし、大多数は感染リスクを回避するために外出しておらず消費が少なくなっているため、全体的な景気の悪化が顕著になっている。
	×	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響でキャンセルが続いている。
	×	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置及び緊急事態宣言発出など、客の動向に影響が出ている。先々の動きも悪くなっている。
	×	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・感染状況と人流がリンクする。7月中下旬より感染拡大傾向が高まっている。さらに、緊急事態宣言発出、まん延防止等重点措置の適用等に伴い、人流が大幅に停滞している。前年夏は部分的なGo To Travelキャンペーンがあったものの、今年は観光支援事業が東北6県でほぼない状態であり、客の行動喚起につながる仕掛けがないため、前月よりも大幅に悪い状況となっている。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・仕事にならない状況がある。特に新型コロナウイルス変異株には客も営業側も大変な思いをしている。
	×	遊園地（経営者）	来客数の動き	・今月はこれまでにない天候不順が続いた。その上に新型コロナウイルスの感染状況が前年よりも悪化し、20日にはまん延防止等重点措置、27日には緊急事態宣言発出となった。最悪の前年を超えるどころか、更に下回っている。
企業 動向 関連 (東北)	◎	—	—	—
	○	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は回復している。
	○	建設業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・現在の懸案事項は新型コロナウイルスの感染者数の増加についてであるが、ワクチン接種によってかなり重症者数が減っている、若しくは高齢者が掛かりにくくなっているということが共通認識である。
	○	金融業（広報担当）	取引先の様子	・夏祭りの2年連続中止はあるものの、有効求人倍率は上昇基調が継続するなど、製造・小売業を中心に経済活動が動きを強めつつある。
	□	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・ももの主力品種はお盆前の需要があり、贈答品として注文数は例年並みとなっている。遅霜もあったが品質が良かった。

□	食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・縮小開催となった七夕祭りは県外客が少なく、3日間の売上は前年比マイナスである。お盆の帰省も自粛傾向が強く、やはり前年比マイナスである。月末は緊急事態宣言の発出もあり、大変厳しい月となっている。土産需要はこのままだとかなり厳しい。
□	食料品製造業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・前年比95%程度の販売状況で、厳しい状況に変化はない。土産需要は前年よりも少なく、土産向け製品の在庫が過剰になっている。
□	電気機械器具製造業 (企画担当)	受注価格や販売価格の動き	・半導体価格が景気を大きく左右するが、これまでの上げ止まりから徐々に下落傾向にある。しかし、まだ当業種の景気に影響はない。
□	輸送業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・8月に入り全国的に新型コロナウイルス感染者数が急激に増えており、当地域も例外ではない。その影響で受注した業務の延期が発生している。また、貨物自体の動きも良くない。8月の売上予想は前年比4%増加となるものの、前々年比では17%減少であり、厳しい状況である。
□	通信業 (営業担当)	取引先の様子	・コロナ禍の厳しい営業環境のなかで、徐々に客の反応が増えてはきているが、思ったような成果は上げられない状況である。
□	金融業 (営業担当)	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、飲食業、ホテル業の苦戦は続いている。
□	広告業協会 (役員)	受注量や販売量の動き	・東京オリンピック開催中は一時的に広告出稿も増えていた。しかし、終了後は感染者数の急拡大もあり、再びまん延防止等重点措置が適用され、上昇傾向にあった広告需要が急激に低下した感じがあり、厳しい状況は続いている。
▲	食料品製造業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・第5波到来でより一層移動の自粛が求められ、観光業界は非常に厳しい状況である。自粛疲れで出歩いている人はいるものの、遠方からの旅行者が少なく、土産品がほとんど売れていない。
▲	出版・印刷・関連産業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・夏～秋にかけてのイベント、お祭りが中止のため、受注が減少している。
▲	窯業・土石製品製造業 (役員)	受注量や販売量の動き	・出荷量が前年同月比90%程度で推移している。
▲	建設業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・まとまった受注がない状況である。
▲	広告代理店 (経営者)	受注量や販売量の動き	・コロナ禍が首都圏を中心に悪化していることにより、受注した業務のキャンセルなど影響が出始めている。
▲	経営コンサルタント	それ以外	・東京オリンピックの景気浮揚効果も余りみられなかった。
▲	公認会計士	取引先の様子	・客の月次、決算状況から判断している。飲食業、小売業、サービス業などは相変わらず厳しい経営が続いている。建設業関係も住宅関係は業績が落ちてきており、全体としては3か月前より悪くなっている。
▲	コピーサービス業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・半導体の品不足の影響で、メインのIT関連商品の入荷状況が思わしくない。
▲	その他非製造業 [飲食料品卸売業] (経営者)	受注量や販売量の動き	・お盆明けから、これまで以上の措置である終日酒類の提供禁止が当地から始まり、27日から県内全域にまで広がった影響は大きい。また、取引先でクラスターが発生し、数日間の営業休止なども起きている。
▲	その他企業 [企画業] (経営者)	それ以外	・近くの温泉街はお盆直前まで秋の行楽シーズンに向けた予約がそこそこあり期待を大にしていたが、当県に緊急事態宣言が発出されるといった話が出た途端に予約連絡が止まり、またキャンセルが相次いでいる。
×	出版・印刷・関連産業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・毎月の売上が前年比マイナスとなっている。負の連鎖を断ち切る思い切った政策が出てこない現状からは、新型コロナウイルス発生前の前々年の数値に戻すには、相当な時間を要するとみている。
×	広告代理店 (経営者)	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大により、何も良い材料がない。地道な営業活動で何とかしのいでいる。

雇用 関連 (東北)	◎	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・ワクチン関連需要はほぼピークで、業績に寄与している。派遣についてもほぼ偏りのない業種からオーダーが入り始めていて、下期から新型コロナウイルス発生前の状況に戻つつある印象を受ける。
	○	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・中途、新卒問わず社員採用を強化する動きは強くなってきている。
	□	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・特に緊急事態宣言が発出された月末にかけては、採用活動どころの話ではない状況になっている。学生向けの説明会や中途採用の面談など、いろいろな活動の先送りが発生している。
	□	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・コロナ禍が続いており、良くも悪くも変化がない。
	□	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・半導体関連など業界によっては求人数が劇的に増加している状況ではあるが、産業全体で見ると横ばいの状態である。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人は若干増加しているものの、出方に勢いがみられない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数、有効求人数共に、3か月前とほぼ同数である。
	□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・離職による求職者が増えていないため、求人、求職の動きが低調である。企業の採用意欲は高まっているが、それに応じる人が少なくなっている。
	▲	人材派遣会社 (社員)	雇用形態の様子	・首都圏はオーダーが回復傾向にあるが、北日本はオーダー含め回復に向かっておらず、いまだに低迷が続いている状況である。
	▲	アウトソーシング企業（社員）	それ以外	・緊急事態宣言が発出されるなどコロナ禍が長引いているため、会議も減り影響が出てきている。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・県独自の緊急事態宣言を受け、秋頃までのイベントは中止や延期を余儀なくされている。
	▲	学校〔専門学校〕	周辺企業の様子	・学生の学費支払時期となっているが、学費支払について延納や分納の相談件数が前年より増加している。家計状況が厳しい家庭が増えていることが推測される。
	×	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響がある。
	×	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルス変異株による感染拡大が急激で、緊急事態宣言発出と同時に、予定していたキャンペーンやイベントを中止、延期する動きが出ている。ワクチン接種が進んでも、感染が収まる見込みがみえないことに対し警戒感が非常に強まっている。